

金杉台中学校に関する保護者説明会(H30.11.10開催)でいただいた意見に対する教育委員会の考え等

A. 説明会での意見に対する教育委員会の考え等

※いただいた意見は可能な限り逐語録として記載していますが、内容に影響のない範囲内で編集している箇所があります。
また、内容に応じて分割して記載している場合があります。(枝番で記載)

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.1-1	金杉台団地に引っ越してきて住んでいます。上の子は金杉台中を卒業し、下の子は今金杉台小で、金杉台中学校に入れる予定で、ここを買い、引っ越してきました。人数は少ない。これは入ったときからそうなってますし、12年後はこういう推計が出ているなっていますが、これはもう金杉台中学校だけではなく全部の子供の数が少なくなります。12年後はどこの学校でも減るでしょう。	市内の中学校の生徒総数は、平成35年度をピークとして減少に転じる推計が出ています。学校単位でみると、平成35年度以降も生徒数が増加する見込みの中学校もある中、金杉台中学校は現在より更に減少し続け、平成42年度には全学年の合計で28人となる推計です。
A.1-2	上の子が行っていたとき、少人数のメリットをすごく感じました。これですぐなくすというのはやめてほしい。そのためにここに引っ越してきて、ここで子育てをして、ここに行かせようと思っています。単純に統合という話ではなく、少人数はデメリットもありますが、メリットもあります。御滝中のほうの知り合いもメリット・デメリット両方あるといいますが、簡単になくすのではなくできれば存続してほしい。今どうしても統合のほうに進んでいるようにみえるが、そこに住んでいるこれからの子育て世代のことを考えてほしい。	学級数が少ない小規模校のメリットとして、例えば、「一人一人がリーダーとなる機会が多くなる」、「意見や感想を発表できる機会が多くなる」などがあると認識しています。 また、1学級当たりの生徒数が少ない(学級規模が小さい)場合にも、同様のメリットがありますが、一方でその状況によっては課題もあります。 小規模校では人間関係が固定化しやすいといわれますが、今後、現在より生徒数が減少し続ける状況が見込まれる中、高校等への進学やその他の場面において様々な人達と関わる機会が増えることを考えると、多様な考え方に触れ、親しい仲間と出会える機会が期待できる一定規模の集団が望ましいと考えています。
A.2-1	先日これに関して意見書をメール送信しました。早速返信いただきました。ご返信の文面に関して、差出人の名前がなかったので正直残念でしたが、1点気になる内容があったのでこの場をお借りして読ませていただきます。「金杉台中の今後を考える会でも、通学区域や選択地域の変更のご意見をいただき、複数の変更案を想定してシミュレーションもしてみました。いずれの案も一時的には学級数が増えるものの、その後はまた全学年単学級になるという推計が出ています。」ということです。 そのとおりだと思います。ですけれども、子供が減るから学校を廃校にするという発想がそもそもおかしいと思います。短絡的だと思います。国が子供を増やしたいと政策でもうたっているのに、その受け入れ先である学校を減らそうとしているのは矛盾しています。近い将来子供が増えるという希望的観測のもとに学校を現状維持させるというのが教育的配慮ではないかと私は思います。国は子供を増やしたいのか。学校は一度減らしてしまって、また増やすというのは絶対に難しいと思います。	国だけでなく地方自治体においても少子化対策として諸々の施策が行われていることは承知しています。 本市においては、今後、児童数(小学校)から徐々に減少していき、やや遅れて生徒数(中学校)が減少していくと推計していますが、地域により人口動態に差があり、生徒数が増加している学校がある一方で、金杉台中学校のように生徒数が減少している学校もあることから、地域の状況に応じた対応が必要になります。 また、生徒数が減少している地域において、将来の生徒数が増えるという希望的観測だけで学校を現状維持することは、その間の在籍生徒に十分な教育環境を提供する上で課題が多く、望ましくないと考えます。

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.2-2	<p>大人数の学校に通いたいお子さんもいらっしゃると思うが、小規模校に通いたいお子さんも当然いると思うんです。</p>	<p>教育に対する価値観、考え方は様々であると思いますが、教育委員会としては、義務教育段階である小・中学校においては、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合うこと等を通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることが大切であると考えています。そのため、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」(以下、「市の基本方針」という。)に基づき、通学距離や通学時間等も考慮しながら学校規模及び学校配置の適正化を進めることとしています。</p>
A.2-3	<p>よく切磋琢磨という言葉在教育委員会では使いますが、切磋琢磨は別に一人でもできるわけである言葉は使い方が気になるところです。がつつ周りの子供の存在を意識しながら学校生活をみんなが送りたいわけではないと思います。私も教育現場にいるのでわかるのですが、少人数の良さが絶対にあると思います。</p> <p>高校の教員なので、大学入試など生徒を指導する中で、今後の教育では新しい学力の3要素がうたわれています。「知識と技能」というのが今までの教育だったんですがそれに「思考力、判断力、表現力」、あとは「主体性、多様性、協働性」という三つの学力が重視されて、それに基づき新テストが作られています。これはとてもハードルが高く、子供の数は少なくなり、大変。未来のお子さんは今の大人より負荷が大きく大変です。そういう中で手厚い少人数教育は大事であるのに、矛盾していると思います。</p> <p>知識基盤社会では、錯そうして複雑な世の中でいるいろいろなことに対応するアドリブ力が求められているので、教室に生徒を詰め込んで手厚い教育ではできないと思います。実際私は教育現場で働いていてわかります。人数が多いから切磋琢磨できるという、それはいかなものかと考えます。許容量以上の学習環境では、お子さんの可能性や潜在力を摘むと思います。</p>	<p>切磋琢磨という言葉は、競争をあおるものではなく、勉学、その他活動において生徒同士がまわりの仲間と共に、その能力、技量等を伸ばしながら成長していくことにつながるものと考えています。</p> <p>少人数の良さがあることは認識していますが、より多くの生徒の中で切磋琢磨することで、学習や活動の意欲の向上等も期待できると思います。</p> <p>また、ご指摘の新たな大学入学試験制度改革が、学力の3要素(「1. 知識・技能」、「2. 思考力・判断力・表現力」、「3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」)の育成・評価、高校・大学の接続改革に関連する取り組みであることは承知しています。</p> <p>学力の3要素のひとつ、「3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成には、多くの生徒がいて、多くの教員が指導する環境の方が望ましいのではないかと考えます。</p>
A.2-4	<p>先日、お子さんをお持ちの保護者の方と話したとき、1点だけ少人数の学校で気になるのは部活動がうまく回らないことで、デメリットは正直それだけだというご指摘がありました。ほかの保護者の方も部活動をネックに思われている方はいらっしゃると思います。現在の中学校の部活動は、マスコミでも取り上げられていますが、教員はブラックで過労死ラインを越えています。</p>	<p>ご指摘のとおり、学級数が少ない場合、配置される教員数が、学級数が多い場合に比べ少ないことから、どうしても部活動の種類が限定されることとなります。</p> <p>また、学級数との関連ではありませんが、教員の多忙化の要因の一つに部活動の活動時間の長さが挙げられていることも事実です。</p>
A.2-5	<p>この話合いという貴重な機会ありがたいけれど、我々教育の素人と、直接現場にいらっしゃるプロの方で、真ん中の現場の先生の声が聞こえてこない。子供は小さいから意見は言えないかもしれませんが、現場の教員の方々の声を吸い上げないと、話合いとして成立しない。匿名でもいいので市内の教員のアンケートとか実際の部活動を含めて取ってほしい。フェアではない。そうなんだろうなというイメージと、過去の経験値で話しているだけなので、まったく話にならない。現場の教員の先生方のお考えを聞いて正しい意見交換会が成立する。どんな形でもいいので、ご配慮いただきたい。</p>	<p>現在、教育委員会には、学校現場での勤務を経験している職員も多くおり、学校の規模に応じたメリット・デメリットについて認識していますので、現場の教員にアンケートをとることの是非を検討する必要があります。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.2-6	<p>メールの内容で私なりに調べたこと、考えたことがあるので簡単に話させていただきます。</p> <p>学校統廃合に関して、想定される肯定と否定の論拠として話を書いたのですが、私自身は当然統廃合に反対です。</p> <p>よくある肯定の意見の中で、小規模校では切磋琢磨・相互啓発がされにくいというご意見はあると思いますが、子供の自然な競争意識を芽生えさせるのに、大規模な集団はいいと思います。そもそも切磋琢磨・相互啓発は大人の理屈です。子供の数が多ければ積極的・能動的になることは経験上考えにくく、かえってそれが負担やストレスとなり、疎外感・無気力感を生み出す可能性が十分考えられます。</p> <p>学力の切磋琢磨ということを計りたいのであれば、中途半端な規模の学校の定期考査の成績をみるのではなく、教材会社主催の模試などを使うべきで、これはいかがなものかと思えます</p>	<p>切磋琢磨という言葉は、競争をあおるものではなく、勉学、その他活動において生徒同士がまわりの仲間と共に、その能力、技量等を伸ばしながら成長していくことにつながるものと考えています。</p> <p>従って、学力の到達度をみる試験のときではなく、日々の授業等の場において切磋琢磨できることが大切ではないかと考えます。</p>
A.2-7	<p>小規模校では、人間関係が固定化されやすいといいますが、逆にデメリットではないと思う。むしろ、安定した継続的な人間関係が子供たちにとっては必要なことです。学校とか家庭とか地域社会で、親密で安定した異年齢で、いろんなお年寄りを含めての人間関係が大事だと思います。そうした中で、安心して子供たちは成長できると思います。核家族化とか両親共稼ぎの家庭もありますが、中学校でも同じでして、地域ぐるみで子供たちを育てなければいけないと思うんです。わざわざ大規模校にしてしまってストレス過重の中で教育させるというのはいかがなものかと思えます。</p> <p>それから、小規模校では社会性が育ちにくいとか、いじめがあったときにクラス替えで対応できないなどありますが、社会性というのは、みんなで何かを成し遂げようとか、自分の属する集団の中で自分の役割をしっかりと果たして主体性を発揮できることですから、そうした力は、やっぱり段階を踏んで、いきなり大規模な学校の中でやるものではないと思います。少しずつ集団を増やしていつかゆっくり育んでいけばいいと思えます。いじめの問題でも根本は同じです。いじめは、人間関係が不安定だからこそ起きる。クラス替えで対応するというのは、対処療法で根治はしていないんです。いじめ問題でクラス替えをしなければならないのは、いじめを初期段階ではなく、深刻になってから初めて気が付くのです。クラスや学校の規模が大きい場合にむしろいじめは起こる。小規模のほうがむしろいじめは起こりにくくて気付きやすいんです。そういうことを改めて認識していただきたいと思えます。</p> <p>社会性ということで付け加えますが、公教育にはキャリア教育があります。例えば人間関係形成能力とか、情報活用能力とか、将来設計能力とか、意思決定力とか。そういう能力をキャリア教育として将来を見据えてちゃんとカリキュラムの中で組み込まれています。小規模というのは理由にならなくて、ちゃんと学んでいるはずなのです。もし人数が少ないから友達が少ないというのなら、ほかの学校と交流すればいいわけで、そういう機会を設定すればいいだけの話だと思います。</p>	<p>小規模校では人間関係が固定化しやすいといわれますが、高校等への進学やその他の場面等、今後、様々な人達と関わる機会が増えることを考えると、多様な考え方に触れ、親しい仲間と出会える機会が期待できる一定規模の集団が望ましいと考えます。</p> <p>固定化された生徒間でトラブルが起きた場合、長期間にわたりストレスを抱える可能性があります。</p> <p>なお、金杉台中学校は、市立小・中学校の中で最も人数が少なく、ご指摘の「少しずつ集団を増やして」というようにはなっておらず、逆に中学校に入学後、集団が小さくなっている状況です。</p> <p>また、いじめについては、中学校の生徒数といじめ認知率(認知数/生徒数)の関係に相関関係はみられません。いじめはどの学校にも起こりうるものであるため、各学校ではいじめ防止等に努めています。</p> <p>キャリア教育に関しては、文部科学省の「中学校キャリア教育の手引き」にもあるように、中学校生活では人間関係の広がりの中で多様な考えに触れ、様々な葛藤や経験をすることも大切であると考えています。ご指摘の「他校との交流」だけでは、深い関わり合いは得にくいと考えられます。</p> <p>このように社会性の育成やいじめの対応はとても複雑であり、その状況に応じて様々な対応策を考えなければなりません。小規模校の場合その選択肢が限られてしまいます。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.2-8	<p>部活動の話で、どうすればいいかですが、最近、地域のスポーツクラブの意義が見直されています。スポーツクラブだけでなく地域に様々な文化活動を行っている団体があり、国とか自治体がしっかり予算を出して指導者を育成し環境も整える、そういうふうにしたほうが建設的だと思います。教員の部活動についてはボランティアであり、すごくブラックです。中途半端な部活動指導をされるよりはスポーツクラブや地域の文化事業に参加するという、新しいやり方をいくらでも考えられるはずですので、ご考慮いただきたいと思います。</p>	<p>国の部活動のガイドラインにおいて、部活動のあり方として、地域との連携がうたわれていることは承知しています。これらの取組みは、学級数の増加に直接結びつくものではありませんが、教員の多忙化の解消に一定の効果があると認識しています。</p> <p>例えば、学校と地域が協働・融合した形の地域のスポーツ環境は、重要であると考えていますが、整備には時間がかかることから、生徒が恩恵を受けるまでの時間もかかります。</p>
A.2-9	<p>適正な学校規模の話ですが、国の基準では12～18学級というのを教育委員会もよく使っていますが、これは標準であり適正ではないのです。適正という表現を使うことに違和感があります。教育的な観点から適正な学校規模を国は定めていません。あくまでもちょうどいいぐらい、あくまでも標準なのです。根拠も学校教育法施行規則でなんとなく決められているのが実際なので、それに関してどうなのかなと。適正というのは標準。それを強調しておきます。</p>	<p>文部科学省に設置された審議会である、中央教育審議会の初等中等教育分科会、小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会(以下「中教審」という。)において、平成20年度に、子供が「生きる力」を育むことができる学校教育を保障する観点から、学校の適正配置の在り方について検討がなされ、標準規模(12学級以上18学級以下)を下回る学校には教育上の課題があり、標準規模の考え方は、現在でも概ね妥当であるとの考え方が示されました。そこでは、一般に、一定の規模がある学校では、子供が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力をさらに伸ばしやすいという利点があることを挙げています。逆に、中学校において6学級に満たない場合の課題として、①1学年1学級が常態化するため、クラス替えができず人間関係が固定化しやすい、②免許外担任が発生しやすくなる、更に小規模化すると、③授業の組み立てが難しくなる、④男女比の偏りが生じやすいことを挙げています。</p> <p>国の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」(以下、「国の手引」という。)は、これらの議論を踏まえてまとめられています。手引では適正規模に関する明確な定義はされていませんが、法令で定める学級数、12学級以上18学級以下を下回る場合において、中学校では少なくとも1学年2学級以上(学校として6学級以上)が必要としています。また、31学級以上を過大規模校と定義していることから、少なくとも6学級以上30学級以下の範囲は適正な学校規模と考えていると推測されます。</p> <p>市の基本方針においても、国の手引を参考に、学級数に応じて学校の規模を整理しています。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.2-10	<p>OECD(経済協力開発機構)という組織の2013年版、「図表でみる教育」という出展では、1学級当たりの児童生徒数は、初等教育の小学校で日本の27.9人に対しOECD平均は21.2人です。前期の中等教育の中学校では32.7人が日本ですがOECD平均は23.3人。1クラスの人数も日本はキャパをはるかに超え世界水準を超えています。クラス、学校の標準規模は1校当たり12～18学級で、一つの学校の児童生徒数は480～720人という計算になるはずで、日本は世界に例を見ないくらいの大規模校なのです。考えられないことなのです。そういうところもわかっていらっしゃると思いますが、改めてご配慮いただきたいと思います。</p>	<p>教育効果の測定は、各方面からすることが必要と考えています。ご指摘のOECDの「図表でみる教育」で示されている、1学級当たりの児童生徒数が、諸外国の中で多いということは確認しましたが、同じく、OECDの学習到達度調査(PISA2015)の結果によると、日本は、参加した72か国中、科学的リテラシー2位、読解力8位、数学的リテラシー5位であり、OECD加盟国35か国内での比較では、それぞれ、1位、6位、1位と各分野において平均得点が高い上位グループに位置していることから、少なくとも学習到達度の観点では、1学級当たりの児童生徒数が少ない方が良いとは言えないと考えています。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.2-11	<p>これ何なのかなという事で、私自身の見解は財務省なのかなと思います。財務省では学校規模の最適化に関する調査を行っているんですが、小中合計で約170億円の効率化ができたという成果を強調して、今後、地方自治体や国を挙げて学校統廃合を促進しようとうたっています。学校規模を小さくする世界の流れに逆行し、学校経費の効率化のため学校規模を維持、もしくは大きくしようというのが、今の日本で統廃合の動きだと私は考えます。そもそも諸外国で学校規模が小さいのは、教育効果が非常に高いからです。きちんとした学者さんがうたっていますことも付け加えておきます。</p> <p>学校統廃合の本当のねらいはやはりお金ですね。小規模校は、経費が割高になって非効率だから、統廃合して学校経費を合理化することが一番ではないかなと思います。データとして財務省の予算執行調査というのがありますが、これは財務省主計局や全国の財務局の担当者が、予算が効率的かつ効果的に執行されているかといった観点から行う調査で、平成14年度から毎年実施されているのですけれど、学校規模の最適化に関する調査は、学校を統合して平成17年4月に開校した全国の公立小中学校全てを対象に、学校統合の現状及び効果等の把握を行ったもので、学校統合によって「人件費を中心として、小中合計で約170億円の効率化、児童生徒一人当たりでは約3割の効率化」が図られたと強調。そして「今回の調査で、学校統合については、①財政効率化のみならず、②学校規模の適正化・教職員配置等の教育政策上の効果、③保護者・子供・設置者等の関係当事者の評価も肯定的であったことが、データで明らかになった」ということなのですけれども、これは教育効果とはまったく違うわけなんです。</p> <p>また、「関係者の評価も肯定的」としていますが、保護者や児童・生徒が、「統合してよかった点」として挙げているのは、圧倒的に多いのが「友達がたくさんできる」で表面的なことなので至極当たり前のことなんです。</p> <p>問題は「統合して困った点」です。「通学距離が遠くなった」、「友達の家が遠い」、あと一番大事なことで「少人数の方が指導は細かい」といったこともうたわれているのです。子供たちの学習や生活面で、具体的・深刻な問題が生じていると。そういった点は無視して、学校統合は「おおむね歓迎されている」と財務省の調査では結論付けています。そういうところもしっかりと、話がかかなり大きくなってしましますが、ご配慮いただければと思います。</p> <p>自民党の話になりますが、選挙公約でOECD諸国並みの公財政教育支出を目指しますと掲げていますが、実際は全然教育費足りてないですね。世界基準ではないので。政権公約なので、この公約を反故にするのかなと私は思います。</p>	<p>財務省の立場としては、学校の統廃合による学校経費の削減は重要な視点だと思いますが、文部科学省が設置している中教審では、統合した自治体の教育長から「人間関係に配慮したクラス編制が可能になる」、「クラブ活動が多種目、大人数で活動できるため生徒のモチベーションの高まりが見られる」という報告や、別の自治体の教育委員会職員からは、「人間関係の固定化の解消や教職員が増えることでチームでの対応ができる」、「体育祭や音楽会といった集団行事の発表教育で十分効果が上がっている」という報告がされています。</p> <p>これらの議論を踏まえて策定された文部科学省の手引を参考に策定した、市の基本方針に基づいて、金杉台中学校の今後のあり方を検討しており、学校経費の効率化を目的としているものではありません。</p> <p>また、統合を実施した他の自治体が行ったアンケート結果でも、多くの保護者や児童・生徒が、「統合してよかった点」として「友達がたくさんできる」ことを挙げていることは承知しています。</p> <p>これらの結果は、親しい仲間に出会える機会が増えるという点から、統合のメリットとして非常に大きい部分であると考えています。</p> <p>なお、市の基本方針では、通学距離・通学時間の考えも示しており、中学校の通学距離は概ね4km以内を原則としています。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.3	<p>いじめの話が出ましたが私も同意見です。いじめがあったらクラス替えをして解決させる、それは解決策ではありません。現に学校を変えたのにいじめが続いて自殺をしてしまったお子さんがつい最近いたはずです。つまりクラスを変えていじめが解決したというのはすごく規模の小さい話で、部活をまたいじめであれば部活を辞めれば、もしくは変えればいいのか。いじめられているお子さんを守るためにクラスを変えていじめが解決するというのは短絡的な話で、お子さんの命を軽んじているとしか思えません。子供がいじめなどでうまくいかないかと思ったご家族がどちらの中学校を選ぶのか。多分ほとんどの方が、小規模校の学校の方が細やかにみてもらえるし、子供同士の間関係がうまくいくから小さい学校に入れたいと感じるのではないかと思います。つまりは大きい学校よりも小さい学校のほうがいじめは少ないと、親は体感的に感じているのではないのでしょうか。いじめがあるから大きい学校じゃないとだめだというのはむしろ逆であるという意見です。</p>	<p>「いじめがあったらクラス替えをして解決させる、それは解決策ではない」とのご意見については、クラス替えがいじめを解消するための万能な対応策ではないことは承知しています。</p> <p>しかしながら、クラスを替えて、当事者同士が別のクラスになることで、いじめられていた子供が安心して登校できるようになった事例や、いじめが解消された事例があることも事実です。</p> <p>なお、中学校の規模といじめ認知率に相関関係はありません。</p>
A.4	<p>金杉台中に子供を通わせています。今の説明で教育委員会のご意見はわかりました。今後、地域を含めて説明会を行っていくのであれば、ここの学校に通っている保護者や教員の方々の意見を踏まえて、両方を考えてほしいと思います。</p>	<p>現在、教育委員会には、学校現場での勤務を経験している職員も多くおり、学校の規模に応じたメリット・デメリットについて認識していますので、現場の教員にアンケートをとることの是非を検討する必要があります。</p> <p>しかしながら、今後は説明会の対象を金杉台中学校、金杉台小学校の保護者に限らず地域の方々へ拡大して意見を伺ってまいります。その際の説明内容については、これまでに皆様からいただいた意見を踏まえてまいります。</p>
A.5-1	<p>親としては、誰のための適正化なのか。子供のためということ絶対にぶれてほしくない。いじめが起きにくい環境であること、安心できる環境であること。それから学習ですね。学校の本分はきちんとした学力を身に付けることで、やっぱり大事なことだと思います。知識偏重ではなく、きちんと意見を安心して言えるということ、それが大事な学習環境ではないかと思います。私も小規模校はメリットのほうが大きいと思います。</p>	<p>金杉台中学校は今後も単学級の学年が継続的に発生することが予想されることから、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に望ましい対応策の検討を始めました。</p> <p>小規模校のメリットも認識していますが、義務教育の機会均等という観点からも、デメリットを解消することの方が重要であると考えています。</p> <p>そのため、通学区域の変更・弾力化により生徒数を増やすことも検討しましたが、学級数の増加が一時的であるとの推計結果となることから、子供たちの教育環境の充実のためには統合が望ましいと考えている旨ご説明しました。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.5-2	<p>基本的には統廃合は白紙であると考えてよろしいのでしょうか。ここで意見が出されましたが、それにも関わらずでもやっぱり統廃合と決まっているわけではないとしっかりと信じてよろしいでしょうか。</p> <p>これから話し合いが続いていくのだということであれば、地域ぐるみで考えることも非常に大事だと思うので、金杉台団地がどうなっていくのかも絡んでいくと思うので、そういうことまで含めて、白紙として地域ぐるみでたくさんの意見を紡ぎながら進めていただきたいと思っています。</p>	<p>統合については、まったくの白紙ではなくて、下書きをしているという段階と考えています。【説明会でも同様の質問があり回答済】</p> <p>小規模校のメリットも認識していますが、義務教育の機会均等という観点からも、デメリットを解消することの方が重要であると考えています。</p> <p>今回は金杉台中学校、金杉台小学校の保護者の方を対象としましたが、今後は説明会の対象を保護者に限らず地域の方々へ拡大して意見を伺ってまいります。その際の説明内容については、これまでに皆様からいただいた意見を踏まえてまいります。</p>
A.6-1	<p>白紙ではない、下書き状態であるという話でしたが、統合に向けてこの地域の方にも知ってもらいたいし、地域の意見も反映させてほしい。本当だったら先生の声が届かないので、聞いたとしても先生の立場上本音は言えないと思うんです。ここだけでなく説明会をしてほしい。受け入れる御滝中は校舎が今でもちょっと大変という声も耳にする。御滝中の現状も保護者の間では耳にしているので、小規模の教育という大切さをもっとうたって、こちらの学区に安心して通わせようと、親の心を動かすような、そういうほうにも目を向けてもらえたらいいなと思います。</p> <p>私たちの下の世代の、人とのコミュニケーションがあまり好きではないという「ゆとり世代」の親もいるので、そういう親たちに向けての発信をしてほしい。ここに来ている親とその下の世代の親御さんとで考え方が違っている。言ったらまずいことは言わない、思っても言わないし、先生も言わない。計画がどんどん進む。決まってから反対意見を出しても、言わなかったですよとなります。もっと情報を広げてもらいたい。メールや投書箱などの案内をして、誰でも意見を言えるように環境を整え、話し合うべきだなと思います。誰でも意見を言って、みんなで子供を育てていける環境を考えてもらいながら、この話の下書きを作っていくしてほしい。</p>	<p>今回は金杉台中学校、金杉台小学校の保護者の方を対象としましたが、今後は説明会の対象を保護者に限らず地域の方々へ拡大して意見を伺ってまいります。その際の説明内容については、これまでに皆様からいただいた意見を踏まえてまいります。</p>
A.6-2	<p>御滝中のほうは特別支援学級がありますが、統合したらでは…と考える人もいます。最近では、発達に関して発見は早いに対応できる人がいない。そういう子供たちを育てていかなければならないので、そういう機関の方にもこの話し合いに参加してもらったらいいかと思っています。担任の先生が一人で30数人を抱えるというのは通常も無理もあって、辞めていく時代です。個性ともいわれるグレーゾーンのお子さんたちがいて、人口の減少云々なり、先生の確保なり、もう少し広い範囲の方を混ぜて話し合いを進めた方がいいと思います。</p>	<p>教育委員会の関係部署とともに、今後検討していきたいと考えています。</p>
A.7-1	<p>昨日、録音させてくださいと教育総務課の担当と話し、今日の説明会に関してはテープ起こしをしてくれるということですのでよろしいですかね。</p>	<p>保護者説明会の会議録は市のホームページに掲載しています。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.7-2	<p>金杉台中学校の今後を考える会があるといいますが、教育委員会で招集したのでしょうか。インターネット上で調べましたが公開されていません。例えば人を選ぶというときに、恣意的に選ぶということもできますし、少なくとも第3回の出席者を見ると、自治会の方が入っているとあるが、その方々は果たして当事者なのか。当事者でない方が大部分を占めているのかなど疑問に思いました。第4回も開かれるということですが、一般公募していないですし、校長先生はいずれ転任されてしまいますし、自治会の方も自分に子供がいなければ答えが適当になってしまうと思います。そういった意味で、当事者じゃない人たちがこれまで話が進んできていると思います。</p>	<p>「船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」(以下、「考える会」という。)は、考えられる望ましい対応策について意見交換をする場として位置付けており、方向性を決定するものではありません。</p> <p>学校関係者として金杉台中学校・金杉台小学校の校長のほか、学校評議員やPTA役員の数人に校長から声掛けをしてもらい参加いただきました。学校評議員の中に自治会の方もいらっしゃいました。</p> <p>教育委員会としては、考える会は子供たちの健やかな成長を願い、学校に深くかかわって下さる方々との意見交換の場であると考えています。</p>
A.7-3	<p>まったくの白紙ではないという話でしたが、考える会を見ると何も決まっていませんと繰り返し書いてあり、あまりに繰り返しされるので本当にそうなのかと思う。ところが3月15日の議会の予算決算委員会で取り上げられていて、そこで前のめりになっているから後で取り返しのつかないことにならないようにと要望されている。議員さんは予算の付け方とかから今後どう進んでいくか承知しているはずです。予算に関係している部署が関わっているので基本的には統合が進む方向で動いているのだろうと私は理解している。聞くと、今日初めて白紙ではありません、何も決まっていないと言われるが、一方で3月の議会では前のめりと指摘されているので、そういう食い違いがあると、今後信頼していいのかという疑問がわいてきます。</p>	<p>平成30年3月15日の議会の予算決算委員会文教分科会で取り上げられた、「来年度中に再配置計画を決定したいと市の所管課が説明したとされた施設」は、金杉台中学校のことでなく、別の市有施設の事です。【説明会でも同様の質問があり回答済】</p> <p>まだ、決定してはませんが、子供たちの教育環境の充実のためには統合が望ましいと考えている旨ご説明しました。</p>
A.7-4	<p>何も異論がないとなった場合に、そうなると最短で進むとしたスケジュールは、いつ誰が何を決め誰が責任をもっているのかまったく示されていない。反対に、もし統合しないと決まるとしたらどうスケジュールなのか、どういう理由があり得るのか、まったく示されていない。いつの間にか決まるのは困るという意見もありましたが、それはスケジュールが全く示されていないからです。</p> <p>昨日係の人に聞いたのでは、教育委員会の会議で議決して、市議会で議決して、と言われていたが、別の話では市長が決めるとも聞いた。インターネットで調べてもまったく出てきませんのでその辺のまずスケジュールを示していただくことが必要だと思います。</p>	<p>対応策の方向性を決定するのは、教育委員会会議です。【説明会でも同様の質問があり回答済】</p> <p>今後も今回のような説明会を対象を拡大して開催していく予定です。開催回数も未定であり現段階で具体的なスケジュールを示すことができません。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.7-5	<p>「学校規模・学校配置に関する基本方針」が示されていますが、その中で、標準規模校というのがあり、金杉台中学校は小規模校にあたるので統合の対象となるという論理ですが、標準規模が適正規模にいつの間にかすり替わっている感じがします。表の中で標準規模ではこういうことが期待されます、と列挙されていますがあくまで期待されているだけです。では標準規模の御滝中では実現しているのか。実際にクラス替えでこういう効果があります、クラブ活動でこういう効果がありますなど、利点について可能性があっても実際に提供されているというのは何も示されていません。果たして標準規模は適正規模なのか、小さい規模のほうが丁寧に見てもらえることなどありますし、適正だろうと私は思っています。標準規模が本当に適正規模なのかという議論をしていただきたいと思います。</p>	<p>国の手引において、適正規模に関する明確な定義はされていませんが、法令で定める学級数、12学級以上18学級以下を下回る場合において、中学校では少なくとも1学年2学級以上(学校として6学級以上)が必要として6学級以上30学級以下の範囲は適正な学校規模と考えていると推測されます。</p> <p>市の基本方針は国の手引を参考に、標準規模校を12学級以上24学級以下としつつ、1学年に少なくとも1学級を編制できる3学級から11学級以下を小規模校と定義し、単学級の学年が継続的に発生することが予想される場合は、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について検討を始めることとしています。</p> <p>仮に御滝中学校と統合することになった場合、期待できる効果として、例えば①クラス替えがあるので、より多くの仲間と出会える可能性がある、②より多くの部活動があるので、希望する部活動に参加できる可能性が高くなる、③体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習や、体育祭や音楽祭等の集団活動・行事において、学級間で対抗する等、活動に幅が広がる、④経験年数や専門性、男女比等のバランスがとれた教員配置やそれを生かした指導ができ、複数人の教科担任が配置できれば、それらを分担できるほか、複数の担当者で意見を交え指導方法等の充実を図れる等が挙げられます。これらの効果は、数値等で示せるものではありませんが、実現できる効果であると考えています。</p>
A.7-6	<p>関係者から聞いた話ですが、御滝中では、各学年20人程度の不登校がいて聞いています。最初学校全体で20人は多いと思ったが、各学年20人ということでびっくりしました。本当の数字なんでしょうか。教育委員会では不登校の人数は把握しているのですか。これは返答いただけないということですか。</p>	<p>【ご意見を伺う時間に出されたこの件については、内容から質問として取扱い、説明会において次のような主旨の回答をしています。また、中学校の規模と不登校率に相関関係はありません。】</p> <p>「不登校に関しては、教育委員会指導課が、各学校から毎月報告を受け把握しています。20人という数字が正しいかについては、お答えできませんが、不登校となっている理由は、人間関係、家庭の問題、病気の場合もあり様々です。</p> <p>新聞等の報道で、不登校者数が増加している傾向があるとされていますが、一つ言えることは、学級数(生徒数)が多いから不登校の生徒が多い、学級数(生徒数)が少ないから不登校の生徒が少ないということは率でいうと一概には言えません。」</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.7-7	<p>一般論としてはそうだと思います。金杉台中学校と御滝中学校とで、最初は私も御滝中学校でもいいじゃないと思っていましたが、関係者から事情を聞くにつれて、これはどうかと思う。私は学力よりも命のことが大事。命が一番で二番目は学校に行くこと。不登校されている子供たちの理由は自分の命を守るために行っていないということだと思います。金杉台中は私が知る限り不登校の数が少ないと聞く。金杉台中に通っている人は、部活動を理由にすれば御滝中には行けたはずですが、行っていない、金杉台中を選んでいる。その中には御滝中の内情を知っている人もいます。</p> <p>統合した場合、金杉台中学校から御滝中学校に通学先が変わるという単純なものではない。約60人が動くのではなく、御滝中に行きたくないから金杉台中学校に行っているという子供が含まれている。私の知る限り金杉台中学校1校分の不登校の生徒さんがいらっしゃるのが、下手したら2校分に増えてしまうかもしれません。単純な数字の移動では判断できないと思います。</p> <p>標準規模校の利点としてクラブ活動が挙げられていますが、クラブ活動が問題で登校できなくなった生徒さんがいると聞いています。ネガティブな面はインターネットにも載っていません。いじめ対策は1枚載っているが、御滝中学校のホームページには不登校について載っていません。御滝中を選んで行っている人が多いですが、この人たちはネガティブな情報を承知して御滝中学校に選んでいるわけではありませんよね。選ばれている数をもってして魅力を計ることはできないと思います。</p>	<p>不登校となっている理由は様々であり、学級数(生徒数)が多いから不登校の人数が多い、学級数(生徒数)が少ないから不登校の人数が少ないということは、率でいうと一概に言えません。また、中学校の規模と不登校率に相関関係はありません。</p> <p>配慮を要する事項ですので、市のホームページで情報提供する性質のものではないと考えています。</p> <p>なお、御滝中学校と金杉台中学校が選択できる地域の方のおよそ9割程度の方が、毎年度、御滝中学校へ入学していますが、その方々が御滝中学校のどのような情報を基に選択したのかについての調査はしていないため把握していません。</p>
A.7-8	<p>昨日私が聞いたところでは、たくさん意見を出していただくために説明会を開きます。今後繰り返し説明会を開き、丁寧に説明していくと教育総務課の担当に話を伺いました。途中、上司に確認すると言い、1時間後に連絡がとれて、言っている内容がコロッと変わって途方に暮れたのです。今後繰り返し行うということをなんとか信じたいと思います。今回のことで苦情を言ったんですが、連絡が回ってきたのが2週間前です。今日出席したくても出席できなかった方もたくさんいらしゃったと思います。そういった方に情報を回すために録音しテープ起こしをしたかったが頑なに遠慮くださいと言われ途方に暮れました。ぜひとも早くインターネット上に上げてほしいと思っています。</p>	<p>今回は金杉台中学校、金杉台小学校の保護者の方を対象としましたが、今後は説明会の対象を保護者に限らず地域の方々へ拡大して意見を伺ってまいります。その際の説明内容については、これまでに皆様からいただいた意見を踏まえてまいります。</p> <p>なお、説明会開催日の周知期間が短かった点については、ご指摘のとおりです。以降のご案内については、周知期間を十分に設けてまいります。</p> <p>また、保護者説明会の会議録は市のホームページに掲載しています。今後の説明会の会議録もなるべく早く掲載できるように努めます。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
A.8	<p>現在金杉台中学校に通っている生徒さんの声を聞いてください。意見を聞く会といながら、当事者は保護者もそうですが、一番の当事者は生徒たちだと思います。なぜ金杉台中学校を選んだのか、どうしてこっちがいいと思うのか、今いいと思っていることは何なのか。そういう情報が一番大事だと思います。うちの子もそうですが、金杉台中学校に行きたいと希望している児童がいます。その子たちも、なぜそこがいいのか。多分、一緒に運動会をやっていて面倒をみてもらっているのととてもいいということだと思いますが、小さい子供たちなりに意見があります。そういう子供たちの意見なしに、大人たちが財政上の事情とかでワーワー言っている、当事者は無視された、蚊帳の外となってしまいます。必ず当事者として子供たちの意見を聞いてほしいと思います。</p> <p>子供たちがこう言っているという情報を持った上で地域に説明してほしい。地域の自治会などを通じて地域の皆さんに丁寧に説明しますと言いますが、教育委員会が金杉台中学校を統合します、廃校しますという立場でいくら説明してもダメです。子供たちはこう思っている、という両方の意見がなければちゃんと説明したことにはなりません。地域に説明するというならば、子供たちはこう言っている、保護者たちはこう言っているという両論併記どころか多角的な説明でなくてはならないと思います。ぜひそれを約束していただきたいと思います。</p>	<p>金杉台中学校の通学区域内には、金杉台中学校に入学することが指定されている地域と、御滝中学校と金杉台中学校を選択できる地域があることから、選択することができる地域の児童にのみ、選択理由を聞くことは考えていません。</p> <p>また、子供たちにこの件に関する意見を聞くということは、かえって子供たちに心配をかけてしまうおそれがあることから、その影響も考慮して検討すべきものと考えています。</p>

B. 「ご意見等記入用紙」による質問・意見に対する教育委員会の考え等

※頂いた質問・意見は原文のまま記載していますが、内容に応じて分割して記載している場合があります。

No.	いただいた質問・意見	教育委員会の考え等
B.1-1	<p>本日の説明会の対象が事前に分からなかったため、次回以降の開催は、対象と、もう少し具体的な開催目的を示してほしいです。</p>	<p>以降のご案内については、よりわかりやすいご案内に努めてまいります。</p>
B.1-2	<p>統合に賛成です。</p> <p>一時的な対応ではなく、先を見て判断してほしい。選択地域に住んでいます、数年前に家を購入する際に選択地域で御滝中を選べるので決めている所があります。少人数のメリットもあるが、私は多人数の方のメリットが大きいと考える。今回はニュースだけでは分からない流利的な事が分かって良かったです。</p>	<p>いただいたご意見のように、教育委員会としても、一時的な対応策では効果が限定的であることから、統合が望ましいと考えています。</p> <p>学級数が増えることにより、①クラス替えができれば、より多くの仲間と出会える、②より多くの部活動があるので、希望する部活動に参加できる可能性が高くなる、③体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習や、体育祭や音楽祭等の集団活動・行事において、学級間で対抗する等、活動に幅が広がる、④複数人の教科担任が配置できれば、複数の担当者で意見を交え指導方法等の充実を図れる等が実現できることが重要であるとと考えています。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
B.2	<p>廃校ありきの説明会という印象。子供たち主体で物事を考えて下さい。大人の都合で大切な学校をなくさないで下さい。</p>	<p>金杉台中学校は今後も単学級の学年が継続的に発生することが予想されることから、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に望ましい対応策の検討を始めました。</p>
B.3	<p>「統合、廃校することが正しい」という事を押し付ける様な説明だった。あくまで統合することは決まっていないのか？ 国や市の都合ではなく、子供、地域を主体に考えてほしい。実際に金杉台小、中の保護者、子供の意見を取り入れてほしい。</p>	<p>通学区域の変更・弾力化により生徒数を増やすことも検討しましたが、学級数の増加が一時的であるとの推計結果となることから、子供たちの教育環境の充実のためには統合が望ましいと考えている旨ご説明しました。 教育に対する価値観、考え方が様々であり、またご自身やお子様の年齢等によっても統合に対して色々なお考えをお持ちだと思いますので、より丁寧に説明してまいります。</p>
B.4	<p>統合ありきでの説明会。意見をくんでもらえるとは思えない会でした。 少人数でのメリットで金杉台中を選択して学校に通学している子供も実際にいる中で、大きな学校への統合は子供の為と色々とうたっているが、全くちがうと思いました。御滝中のメリット、デメリットあると思うが、デメリットが大きすぎて入れたいと思わない。子供も行きたくないと言っている。 少人数ならではのメリットを伸ばして存続する方向を旨としてほしい。子供が望まない統合はおかしい。</p>	
B.5	<p>無くすことしか考えていない様に感じた。</p>	
B.6-1	<p>統合ありきの話しだったように思う。なんとなく決まっていな事を決定しているかのようには話されている事に不信感をいただきました。 3人子供がいて来年度入学予定の子がいます。小規模の方がメリットが多いと思う。御滝中は悪いうわさしか聞きません。 今回参加してみて良かったと思います。見えなかった部分がよく見えたので・・・ 質疑応答の際に出ていた意見、教員の方の話し、意見も聞いてみたいです。</p>	

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
B.6-2	<p>中学の選択制を廃止すべき！そんなやり方をしているから片寄りがでるのだと思う。</p>	<p>選択地域は、地理的な特性を理由に隣接する学区へも通学できるように設定している地域です。</p> <p>金杉台中学校の生徒数は、平成21年度に初めて100人を切り、全学年1学級となったことから、生徒数の増加を期待して、平成22年度より御滝中学校の通学区域の一部で、金杉台中学校も選択できる地域を現在のように拡大しました。一時期、学級数は増えましたが、平成26年度からは全学年1学級が続いています。</p> <p>また、この選択地域では、およそ9割程度が御滝中学校を選択して入学している実態が続いています。仮にこの選択地域の多くを金杉台中学校の通学区域として御滝中学校を選択できないように、選択制を廃止する見直しをしたとしても、金杉台中学校の学級数の増加が一時的であるとの推計結果となります。数年後には再び何らかの見直しが必要となる可能性が高く、地域に何度も負担をかけることになり、望ましい対応策ではないと考えています。そのようなことから、地域の子供たちの教育環境の充実のためには統合が望ましいと考えている旨ご説明しました。</p>
B.7	<p>進学予定校のアンケートを近隣校も含め(二和、金杉地域)行って欲しい。進学生徒数の推定を過去だけで推定して欲しくない。</p>	<p>生徒数の推計は、転入、転出、転居等の社会増減傾向を反映させているほか、選択地域のある学校の生徒数の推計には、選択地域の過去の選択率の平均値を用いて、関係校に按分しているところです。</p> <p>入学を希望する学校のアンケートをとり、それに基づき今後の生徒数を推計することとした場合、中学校入学が10年以上先のお子様にも、入学希望の中学校をお聞きする必要があります。この時期に中学入学時の希望学校をお聞きしても、漠然と選択するしかない可能性もあり、推計の精度として、現在の方法と比較して望ましい方法とまではいえないと考えています。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
B.8	<p>小規模のメリットにほぼふれていないことが本当に残念。子供は机上では育たないので、ぜひ当事者達(子供、親、教員)の意見を聞いてからがスタートです。義務教育だからこそ苦手なことがある子に目を向けるべきです。</p>	<p>ご指摘のとおり、小規模校のメリットについては、口頭では説明したものの、説明のために主に使用した資料には記載していなく、別冊参考資料に記載していただけでした。次回以降の資料では考慮したいと考えています。</p> <p>また、子供たちの苦手なことはそれぞれ違うと思いますので、教員は個々の状況に応じて、それを克服できるように手助けしていくものと考えています。</p> <p>なお、現在、教育委員会には、学校現場での勤務を経験している職員も多くおり、学校の規模に応じたメリット・デメリットについて認識していますので、現場の教員にアンケートをとることの是非を検討する必要があります。また、子供たちにこの件に関する意見を聞くということは、かえって子供たちに心配をかけてしまうおそれがあることから、その影響も考慮して検討すべきものと考えています。</p>
B.9	<p>話を聞いていると、統合する事前提に話しをしている。これが結論？としか思えない。意見をきいている様できいていない。</p> <p>人数が多ければいいというわけではない。子供の親の気持ちを考えてほしい。もっと現場を見るべき。</p> <p>御滝に通わせるメリットはない。実際にいじめもあり先生が見きれていないのに通わせるとなったら不安。見きれていないから、勉強できない。塾に通うってのはなしをよくきく。先生は何をしているのかと不安になる。</p>	<p>御滝中学校には、教科担任が教科毎に複数人配置されており、複数の担当で意見を交えて指導していくことも可能であると考えます。なお、今後も不安な点について丁寧に伺ってまいります。</p>
B.10-1	<p>統廃合なんだなと思いました。賛成はしません。</p> <p>次回はいつですか。早めのアナウンスをお願いします。</p>	<p>今後も引き続き説明会を開催して、ご理解いただけるように説明してまいります。</p> <p>今回の説明会のご案内は2週間前となってしまい申し訳ございませんでした。次回以降の説明会のご案内は余裕をもって行いたいと思います。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
B.10-2	<p>発達に遅れや、かたよがりがある子供の教育にかかわっている教育者も加えたほうがいいというのは、本当にそうだと思います。</p> <p>考える会のメンバーが、かたよっているのでは？少ない、と私も思います。もっとたくさんの人、色んな人の意見をきける環境をつくることしっかりアナウンスすることをしてほしい。</p> <p>金杉台中の生徒の意見を聞いてください。本当にそうだと思います。子供の気持ちが必要です。</p>	<p>教育委員会の関係部署とともに、今後検討していきたいと考えています。考える会は、金杉台中学校及び金杉台小学校の学校評議員、PTA役員の方々、両校の学校長をメンバーとして、意見交換してきました。地域を対象とした説明会に先立ち、様々な対応策が提案され、それらを一つ一つ丁寧に検証することができ、また論点の整理ができたと考えています。</p> <p>その経過を踏まえて、説明会では「教育環境の充実のために統合が望ましいと考えている」という、教育委員会の考えを説明いたしました。</p> <p>考える会の意見交換を踏まえ、今回の保護者説明会をはじめ、今後の地域説明会にて、多くの方に教育委員会の考え方をご説明し、意見を伺ってまいります。その際の説明内容については、これまでに皆様からいただいた意見を踏まえてまいります。</p> <p>なお、子供たちにこの件に関する意見を聞くということは、かえって子供たちに心配をかけてしまうおそれがあることから、その影響も考慮して検討すべきものと考えています。</p>
B.10-3	<p>少人数のほうが適正規模だと私も思います。</p> <p>選べる(特に行きたくない学校に行かないですむ)ということは大事だと思います。</p>	<p>国の手引において、適正規模に関する明確な定義はされていませんが、中学校では少なくとも1学年2学級以上(学校として6学級以上)が必要としていること、また、1学級当たりの生徒数が少ない場合、考慮を要するとしていることから課題があると考えています。</p> <p>また、法令で市町村教育委員会は就学すべき学校を指定することと規定されていることから、あらかじめ各学校の通学区域を設定しそれに基づき通学指定校を指定しています。</p> <p>なお、地域の特性を理由に隣接する学区を選べる地域や、特別な事情があると認められる場合に通学する学校を変更できる指定校変更制度があります。</p>
B.11	<p>統廃合させたいという意図がわかった。教育委員会の御説明にいちいち「？」と思うことがありました。(質問を整理したうえで)改めて企画係宛メール送信できればと思います。</p> <p>先日企画係宛メールでお伝えいたしました。教育委員会の方々、我々保護者と、かなりの温度差や考え方の違いをととも感じました。</p> <p>「学校統廃合は誰のために行うのか？」子供、保護者地域の方々のためにはないと思います。未来の子供のことをもっとよく考えて下さい。</p>	<p>疑問点等ございましたら、メール等でお問い合わせください。</p> <p>子供たちの教育環境の充実のためには統合が望ましいと考えている旨ご説明しました。</p> <p>教育に対する価値観、考え方が様々であり、またご自身やお子様の年齢等によっても統合に対して色々なお考えをお持ちだと思いますので、丁寧に説明してまいります。</p>

No.	いただいた意見	教育委員会の考え等
B.12	<p>話し合う範囲が狭い(教員、地域、関係職員など、もっと広い人で) 小規模の良さも伝えるべき(先生が成長→子供の成長)身につけた先生が大規模校へ行ったとき教育の質があがるのでは？ 御滝中の現状、受け入れ(校舎、職員数など)教えて話すべき。 廃校の方向でしか動いていないようにしか感じない。もしそうであるなら、納得いく情報を出すべきではないのか？ 親の意見が心に染みること、ありませんでしたか？表情からは、仕事として座られているようにしか見えませんでした。</p>	<p>今回は金杉台中学校、金杉台小学校の保護者の方を対象としましたが、今後は説明会の対象を保護者に限らず地域の方々へ拡大して意見を伺ってまいります。その際の説明内容については、これまでに皆様からいただいた意見を踏まえてまいります。</p> <p>なお、現在、教育委員会には、学校現場での勤務を経験している職員も多くおり、学校の規模に応じたメリット・デメリットについて認識していますので、現場の教員にアンケートをとることの是非を検討する必要があります。また、子供たちにこの件に関する意見を聞くということは、かえって子供たちに心配をかけてしまうおそれがあることから、その影響も考慮して検討すべきものと考えています。</p>
B.13	<p>まずは情報を十分出してください。</p>	<p>保有している情報で、個人情報等のように配慮を要する情報を除き、お示しすることができるものについては、ご説明してまいります。</p>
B.14	<p>わかったけれど、納得はしていない。 今日の時点で存続を希望する声が多数あるにもかかわらず、白紙撤回と言わないのは不信感につながる。</p>	<p>今後も引き続き説明会を開催して、ご理解いただけるように説明してまいります。考えられる対応策として検討してきたものについて、実現困難なもの、効果が一時的なものもあり、教育環境の充実のためには、統合が望ましいと考えているため、現時点では「白紙」ではなく「下書き」している段階と説明しました。</p>